私の工夫

人とのかかわりを楽しみ、主体的に園生活を送る幼児をめざして
―小学生との交流を通して―

総社市立秦幼稚園
教諭　松原　郁恵

1　はじめに

本園の幼児は明るく素直で、異年齢児同士でかかわりながら好きな遊びを楽しむことができる。しかし、少人数であるため、限られた人数でしか遊べず、5歳児は協同的な遊びが経験できにくかったり、苦手なことに対して慎重な姿も見られたりする。一方で本園は小学校が隣接し、計画的に交流を行うことができている。交流を通して、幼児は小学生への親しみや憧れの気持ちを抱き、刺激を受け、まねようとしたり、経験したことを自分たちの遊びに取り入れようとしたりする姿が見られる。そこで、幼児が小学生との交流を楽しみながら主体的に園生活を送り、遊びや生活を充実させることができるようになるためには、どのような教員の援助や環境構成が必要かを探りたいと考え、主題を設定した。

2　研究の内容

(1) めざす幼児像

めざす幼児像を『自分らしさを発揮して遊びや生活に取り組む幼児』『相手の気持ちになって考える幼児』『小学生との交流を楽しみ、親しみや憧れの気持ちをもつ幼児』とし、めざす幼児像への道筋を明らかにして、実践を行う(**図1**)。また、小学生との交流を通して「自分から生活を進めたり、興味や関心をもって夢中で遊んだりできる」「友達の思いや気持ちを考えたり、受け入れたりする経験ができる」「小学生と心を動かす交流体験をし、満足感を味わうことができる」ような教員の援助・環境構成・交流のあり方

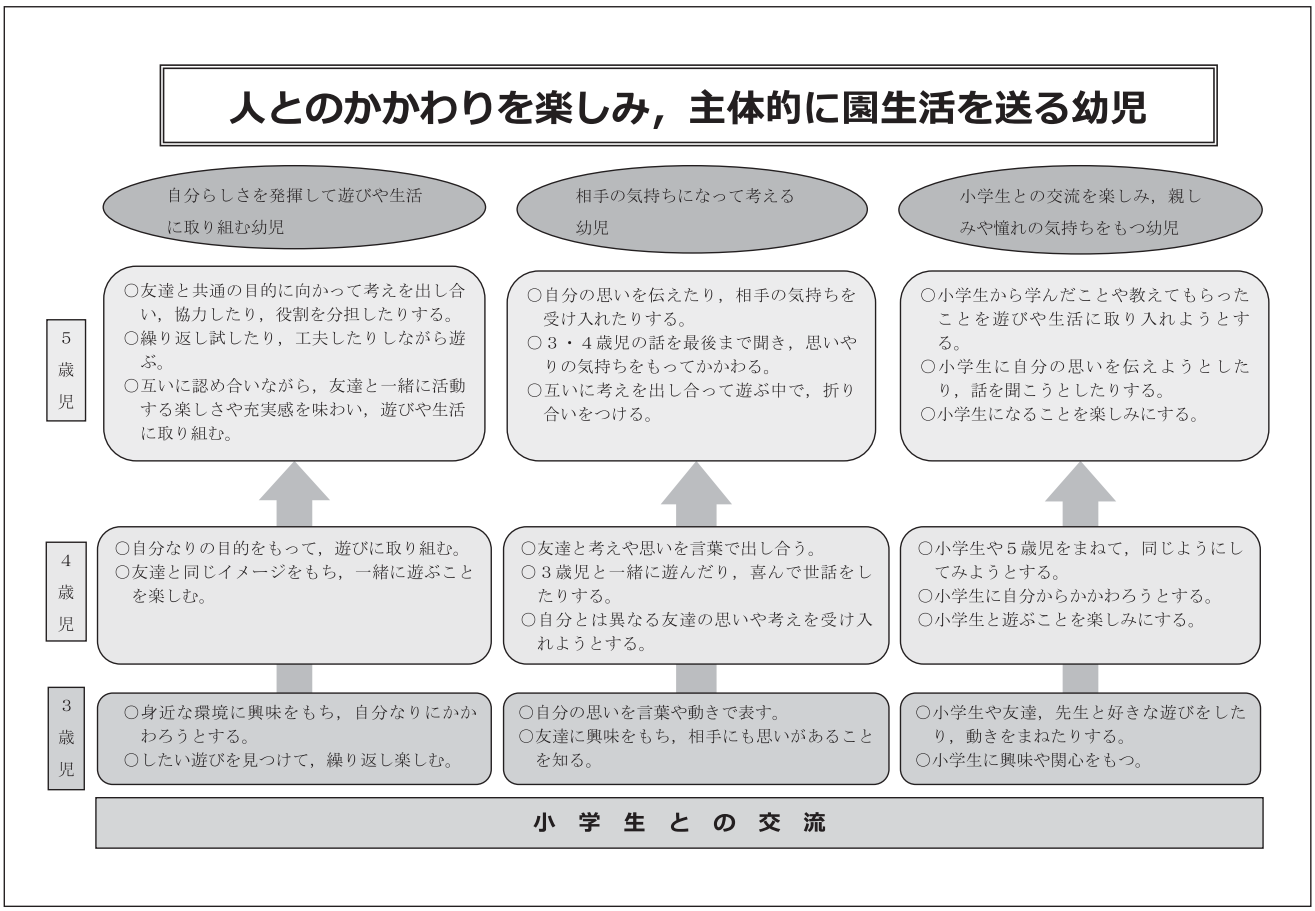

図１

はどうあればよいかを探る。

（2）実践にあたって工夫したこと と成果

①交流のもち方の工夫

小学校のフェスティバルに参加した後、5歳児が「まねしたい」と言ったことをきっかけに、そのためのアドバイザーを3年生に依頼し、4日間連続した交流を行った（**図2の※1**）。交流を1日限りでなく、連続して行ったことで、幼児は小学生により親しみをもち、小学生の姿から遊び方のヒントを得たり「明日はこうしたい」という目的をもったりすることができた。小学生は、幼児の気持ちや声の掛け方を考えながら、幼児に接することができ、幼小が互恵性のある交流をすることができた。

3年生に手伝ってもらいながら、
幼稚園フェスティバルの準備をしている幼児

②交流後、振り返りの時間を設定

交流後すぐに振り返りの時間を設定し、幼児の思いや考えをクラス全体で共有できるようにした。そのことで、自分の思いを出したり、友達の考えを聞いたりしながら、友達と共通の目的をもって遊びを発展させることができた。

③幼児と小学校の教員の交流

5歳児が小学校の教員に興味をもちはじめたことから、小学校の先生インタビューを行った（**図2の※2**）。「好きな虫は何ですか？」などの質問を小学校の教員にし、答えてもらうことを卒業まで楽しんだ。誰に何を尋ねるかを幼児が主体となって決め、小学校の教員と話す体験を積み重ねたことで、幼児は小学校の教員を身近に感じ、入学への期待感をもつことができた。

小学校の教頭先生に1人ずつ
好きな質問をしている幼児

④教員間の連携の工夫

事前の打合せで、幼小のねらいを確認することで、互いにねらいを意識して交流をすることができた。また、個々の幼児・小学生の特性、各学年の発達を考慮しながら、交流の流れや持ち方を工夫したことにより、幼児と小学生がスムーズに信頼関係を築き、安心感をもって交流することができた。

⑤保護者への情報の発信

交流活動を、掲示物や便りで保護者に発信することで、保護者も小学校や小学校の教員を身近に感じ、入学への安心感や期待感をもつことができた。

平成２９年度　幼小交流計画　○数字は交流学年（小学生）

月	幼稚園での交流	小学校での交流
４月		
５月	イチゴ摘み①	親劇会⑥ トウモロコシ植え・鬼ごっこ⑤
６月	お化け屋敷①②	ブドウ贈呈式⑥
７月		トウモロコシ収穫・プール遊び⑤
９月		合同運動会⑥
１０月		小学校の先生インタビュー （１０～２月　※２）
１１月		合同学習発表会⑥ 幼稚園教師による絵本の読み聞かせ③ 自然物遊び①
１２月	小学生による絵本の読み聞かせ③	業間縄跳び・縄跳び大会⑥
１月		昔遊び④ にこにこフェスティバル⑥
２月	幼稚園フェスティバル準備交流③（※１） 幼稚園フェスティバル③	業間持久走・持久走大会⑥ 一日入学①
３月		

図２

3　まとめと今後の課題

○幼児の実態や年齢に応じた交流をしたことで、幼児が無理なく小学生とかかわり、育ちや学びにつなげることができた。今後は、小学校教員と交流の時期や内容を見直し、幼児の学びの見通しをもって教育課程に位置付けていきたい。

○幼小の当該学年の教員は活動のねらいを共通理解することができたが、全教員で共通理解することは難しかった。今後は、幼小ともに終礼・職員会議での報告や合同職員会議、打合せをもつことで、幼児や小学生の学び、教員の気付き、課題などを全教員に周知し連携を深めたい。

○幼小の教員ともに事前事後の話し合いの重要性を実感したが、その時間確保の難しさを感じた。今後は、交流の担当者を決め、担当者を中心に推進していきたい。

○教員間の連携を深めることが、幼児の育ちや入学への期待感につながることを実感できた。今後は、明確になった幼児の育ちを基に、幼小接続カリキュラムを見直していきたい。